

【1】

ある日のこと、私が新しい人形で遊んでいると、サリバン先生が「もう一つの」大きな布製の人形を私のひざの上ののせて d-o-l-l と綴った。そして、それが両方の人形を指す言葉であることを私に理解させようとした。

【2】

大統領や総理大臣の後ろに立って、外国からの訪問者の発言を耳元で通訳しているのを見るたびにいつも感心する。ある言葉を別の言葉に訳す、つまり聞くのと話すのを同時に行うのには、いったいなんという（素晴らしい）才能が必要なんだろう！

【3】

永遠に生きるものなど一つもない。これは正しいだろうか？ いや、間違っている。信じられないと思えるかもしれないが、死なない動物がいくらか存在する。その動物たちはとても単純な生き物で、小さすぎて顕微鏡の助けを借りなければ見ることはできない。人間を含む大抵の動物が、体内に何十億もの細胞を持っているのに対して、公然と死に抗うこれらの小さな生き物たちは、たった一つの細胞しか持っていない。

【4】

アメリカの高校生は、必ずしもパートタイムのアルバイトをする必要はない。しかし、多くの生徒は、経済的に完全に両親に頼らなくても済むように、放課後や週末に働くことを選ぶ。「実社会 [世の中]」に出るための心の準備に加えて、彼らに実践的な経験を積ませるために、生徒たちはアルバイトをすることを奨励されている。アルバイトは、若者に責任の何たるかを教え、独立 [自立] に対する満足感を提供してくれると私は思う。他方で、日本の教師たちや親たちは、私に次のように言う。日本の生徒たちはアルバイトをすることを奨励されていない。なぜなら、親たちは、自分の子どもたちが悪い人々に出会って、悪い仕方で影響を受けることを恐れているからだ。お勉強が「実社会 [世の中]」へ出るための十分な準備と見なされている。

【5】

この話は、古代人が、恒星間の惑星の動きを観察し、惑星が太陽の周りをまわっている—これは、のちにコペルニクスがあらためて発見する事実であるが—と推論するに至ることから始まっている。いったい惑星は太陽の周りをどのようにまわっているのか、いったいどのような動きをしているのかを知るには、もう少しの更なる作業が必要だった。16世紀に端を発して、惑星は本当に太陽の周りを回っているかどうかについての大きな議論があった。ティコ・ブラーエは、古代人が提案したいかなる考えとも異なる考えを持っていた。彼の考えは、天空の惑星の実際の位置を十分正確に測定すれば、惑星の運動の性質に関する議論は最良の解決をみるだろうというものだった。もしかすると、測定により惑星がいったいどのように動くのかが示されれば、何らかの視座を確立することが可能かもしれない（と考えていた）。